

# 国語問題

## 〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図<sup>あいず</sup>があるまで、開かないこと。
- 二、問題は□・□で、十九ページにわたって印刷してあります。  
ページが抜ける<sup>ぬ</sup>などとしていた場合には、試験監督<sup>かんとく</sup>の先生に申し出なさい。
- 三、解答は、すべて解答用紙に記入し、受験番号・氏名をもれなく、正確に記入すること。
- 四、問題冊子<sup>さっし</sup>の表紙にも、受験番号・氏名を必ず記入すること。

受験番号

氏名

◎文中からそのまま抜き出して答える場合、句読点や記号は一字とすること。また、ふりがなのある漢字は、ふりがなをつけなくてもかまいません。

— 1 —  
次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

草児は両親の離婚をきっかけに母親の実家で祖母と三人で暮らしはじめた。引越す前だったひとりの友だちであつた文ちゃんとは、保育園からの幼なじみである。ある日、草児はおこづかいの足りない文ちゃんに自分のお菓子代をわたしてしまい、そのまま引越して離ればなれになってしまった。

転校してきた日、黒板に大きく書かれた「宮本草児」という文字の前で自己紹介をしている時、誰かが笑った。「なんかしゃべりかたへんじゃない？」と呟いたのも聞こえた。

ひとりが発した笑い声は、ゆつくりと教室全体に広がっていった。①風<sup>ふう</sup>に吹かれた草<sup>くさ</sup>が揺れているようだった。風はやがて止んだが、草児はもう口を開くことができなかった。黒板に書かれた「宮本草児」という名も他人のもののように感じられた。両親の離婚を受け入れたことと自分が母の名字を名乗ることになったことは、②また別の話なのだ。

③タンニンの先生は笑った生徒を注意するわけでもなく、自己紹介を途中でやめた草児に続きを促すわけでもなく、授業をはじめた。

強いものと弱いもの。頭のよいものとよくないもの。教室には異なる種の生物が共存している。くつきりと二分されているわけではなく、あるものは足がはやく勉強ができるが、性質がおとなしく、あるものはどちらもそこそこであるが空気をあやつるのがとてもうまく、声が大きい。力の関係は状況に応じて微妙に変化し、ぎりぎりのところで均衡をたもつ。均衡という言葉は最近、図鑑で覚えた。バランスと表現するよりかっこいい。

転校してくる前の草児が、<sup>③</sup>そんなふう考えたことは一度もなかった。世界はもつと、ぼんやりとしていた。自分がその世界の一部だったからだ。今は違<sup>ちが</sup>う。世界と自分とがくつきりと隔<sup>へだ</sup>てられている。ガラスだかアクリルだかわからないけど、なんだか分厚い透明<sup>とうめい</sup>ななにかに隔てられている。

そう思うことで、むしろ草児の心はなぐさめられる。<sup>④</sup>自分はこの学校になじめないのではなくて、ただ博物館で展示物を見ているように透明の仕切りごしに彼ら<sup>かれ</sup>を観察しているだけ、というポーズでどうにか顔を上げていられる。

今日はひとことも喋<sup>しゃべ</sup>らない日だった。授業でも一度も当てられなかったし、消しゴムも落とさなかった。木曜日はつまらない。博物館の休館日だからだ。

家に帰ると、めずらしく母がいた。「シフトの都合<sup>①</sup>」で、急きよ休みになったのだという。

ビールでも飲んでじゃいますかねえ、などと冷蔵庫を  
A 開ける母は以前よりすこし瘦<sup>や</sup>せた。明るい時間に顔を合  
 せるのはひさしぶりだった。祖母はいない。買いものに行ったという。

母はこの街<sup>②</sup>に来て三日目に「仕事決まった!」とはしゃいでいた。百円ショップの店員となった母は、そのあとしばらくして「もつと稼<sup>かせ</sup>がなきゃ」と言い出し、夜中の二時まで営業しているという釜<sup>かま</sup>めし屋の仕事をみつけてきて、昼も夜も働くようになった。たまに、売れ残りの釜めしを持ち帰る。それらは  
B 翌日の草児の朝食か、母の弁当になる。

細長いコップに<sup>⑤</sup>ツソいだビールを三口ほどで飲み干した母は、草児の視線に気づいて「へへ」と照れたように肩<sup>かた</sup>をすくめる。  
 なにかをごまかすように「草ちゃんもなんか飲む? 麦茶とか」と訊<sup>たず</sup>ねる。草児は黙<sup>だま</sup>ったまま  
C を振<sup>ふ</sup>った。

## 《 中 略 》

「シフトの都合」で予定外の休みをもらった母は、同じ理由で休みがなくなった。十連勤だなんて冗談<sup>じょうたん</sup>じゃないよとぼやいていたのは最初の数日だけで、半ば頃<sup>ころ</sup>になると家にいる時は無言でテーブルにつっぱしているだけの、物言わぬ生物になった。祖母はなんだか近頃調子が悪いといつて、日中も寝<sup>ね</sup>てばかりいた。

(注) 古生代の生物たちも、こんなふう<sup>(しやう)</sup>に干渉し合うことなく、暮らしていたのかもしれない。同じ家の中にいても、ほとんど言葉を交<sup>か</sup>わさない。母や祖母の気配だけを感じつつ、ひとりで食卓<sup>たく</sup>に置かれたパンや釜めしを食べた。

味がぜんぜんわからなかった。給食もそうだ。甘い<sup>あま</sup>とも辛い<sup>から</sup>とも感じない。誰かと同じ空間にいても、人間は簡単に「ひとり」になるものだ<sup>(か)</sup>と、こんなふうになるずっと前から知っていた。

博物館の前に立ち、「本日休館日」の立て札<sup>(か)</sup>を目にするなり、動けなくなってしまった。今日は木曜日だということをすっかり忘れていた。⑤ 一色の絵の具で塗り<sup>ぬ</sup>つぶしたような毎日の中で、曜日の感覚が鈍<sup>にぶ</sup>っていたのかもしれない。

ワチャーというような声が頭上から降<sup>ふ</sup>ってきて、振り返った。このあいだムササビの骨格標本を見上げていた男が草児のすぐ後ろに立っていた。今日は灰色のスーツを着ている。男の指がずっと持ち上がって、立て札を指す。ちょっと異様なぐらいに長く見える指だった。

「きみ知ってた？ 今日休みって」

「うん」

男があまりに情けない様子だったので、つい警戒心<sup>かいけいしん</sup>がゆるみ「知ってたけど忘れてた」と反応してしまふ。

「そうかあ」

中に入れないのならば、帰るしかない。背を向けて歩き出すと、男も後ろからついてくる。公園から出るには同じ方向に向かうしかないからあたりまえのことなのだが、気になって何度も振り返ってしまう。

「どうしたの？」

草児の視線を受けとめた男が、ゆったりと口を開く。なにを勘違い<sup>かんごう</sup>したものか「なに？ 腹減<sup>はらへ</sup>ってんの？」と質問を重ねる。違う。とつさに答えたが、嘘<sup>うそ</sup>だった。腹は常に減っている。

男のアクセントはすこしへんだった。このあたりの人とも、草児とも違う。そのくせ、すこしも恥<sup>は</sup>じてはいないようだ。

「あ、これ食う？」

書類やノートパソコンが入っていきそうな鞆かばから、蒲焼かばきさん太郎が出てきた。差し出されたそれを草兎くさうが黙だまって見ていると、男はきまりわるそうに下を向き、ホウソウを破きいて、自分の口に入れた。

「そうだな、あやしいよな。知らないおじさんが手渡わたしてくる蒲焼かばきさん太郎なんか食べちゃだめだ」

しっかりしてるんだな、えらいな、うん、と勝手に納得なっし、男はベンチに座った。鞆かばから、つぎつぎとお菓子が取り出される。いくつかのお菓子には見覚えがあり、そのほかははじめて目にする。うまい棒とポテトスナックは知っているが、なんとかボールと書いてあるお菓子は知らない。

「あの、なんで、そんなにいっぱいお菓子持ってるの」

おそろおそろ問う。この男は草兎が知っているどの大人とも違う。男はすこし考えてから「さあ？」と首を傾かげた。自身のことなのに。

「安心するから、かな」

うまい棒を齧かじりながら、男は「何年か前に出張した時に」と喋り出した。帰りの新幹線が事故で何時間もとまったまま、という体験をしたのだという。いつ動き出すのかすらまったくわからなくて、不安だった。でも、新幹線に乗る前に売店で買ったチップスターの筒つつを握にぎりしめっていると、なぜか安心した。その時、思いもよらないものが

D

くれることも

あるんだな、と知った。あれは単純に「食料がある」という安心感ではなかった、たとえば持っていたのが乾パンなどの非常食然としたものだったらもっと違った気がする、だからお菓子というものは自分の精神的な命綱づなのようなものだったのだ、というようなことをのんびりと語る男に手招きされて、草兎もベンチに座った。いつでも逃にげられるように、すこし距離きょりをとりつつ。

草兎が背負そっていたリュックからオレンジマールガムのボトルを出すと、男は「なんだよ、持ってるじゃないか」とうれしそうな顔をする。自分のガムはただのおやつであって、命綱なんかではない。

やっぱへんなやつだ、と身を引いた拍子ひょうしに、手元が狂くるった。容器の蓋ふたが開いてガムがばらばらと地面にこぼれ落ちる。草兎

は声を上げなかった。男もまた。映画館で映画を観るように、校長先生の話を聞くように、唇を結んだまま、丸いガムが土の上を転がっていくのを見守った。

気づいた時にはもう、涙があふれ出てしまっていた。頬を伝っていく滴は熱くて、でも顎からしたたり落ちる頃には冷たくなっていた。

どうして泣いているのか自分でもよくわからなかった。ガムの容器の蓋をちゃんとしめていなかったこと。博物館の休みを忘れていたこと。男が蒲焼きさん太郎を差し出した時に蘇った、文ちゃんと過ごした日々のこと。

楽しかった時もいっぱいあった。

それなのに、どうしても文ちゃんに嫌だと言えなかったこと。嫌だと言えない自分が恥ずかしかったこと。別れを告げずに引越してしまったこと。

父が手紙をくれないこと。自分もなにを書いていいのかよくわからないこと。

今日も学校で、誰とも口をきかなかったこと。算数でわからないところがあったこと。でも先生に訊けなかったこと。

母がいつも家にいないこと。疲れた顔をしていること。祖母から好かれているのか嫌われているのかよくわからないこと。

いつも自分はここにいていいんだろうかと感じること。

男は泣いている草児を見てもおどろいた様子はなく、困惑するでもなく、かといって慰めようとするでもなかった。ただ

「いろいろ、あるよね」とだけ、言った。

「え」と訊きかえした時には、涙はとまっていた。

いろいろ、と言った男は、けれども、草児の「いろいろ」をくわしく聞きだそうとはしなかった。

「いろいろある」

草児が繰り返すと、男は食べ終えたうまい棒の袋を細長く折って畳みはじめる。

「ところできみは、なんでいつも博物館にいるの？」

「だよね、いつもいるよね？」と質問を重ねる男は、草兎がいつもいるとわかるほど頻繁に博物館を訪れているのだ。

⑦「恐竜とかが、好きだから」

大人に好きなものについて訊かれたら、かならずそう答えることにしている。嘘ではないが、<sup>(注3)</sup>太古の生物の中でもとりわけ恐竜を好むわけではない。にもかかわらずそう言うのは

「そのほうがわかりやすいだろう」と感じるからだ。そう答えると、大人は「ああ、男の子だもんね」と勝手に納得してくれる。

⑧「あと、もつと前の時代のいろんな生きものにも、いっぱい、いっぱい興味がある」

他の大人の前では言わない続きが、するりと口から出た。

<sup>(注4)</sup>エディアカラ紀、海の中で、とつぜんさまざまなかたちの生物が出現しました。

体はやわらかく、目やあし、背骨はなく、獲物をおそうこともありませんでした。

エディアカラ紀の生物には、食べたり食べられたりする関係はありませんでした。

凶鑑を暗誦した。

草兎は、そういう時代のそういうものとして生まれたかった。同級生に百円をたかられたり、喋っただけで奇異な目で見られたり、こっちはこっちでどう見られているか気にしたり、そんなんじゃない、静かな海の底の砂の上で静かに生きているだけの生物として生まれたかった。

「行ってみたい？ エディアカラ紀」

<sup>(a)</sup>唐突な質問に、うまく答えられない。この男は「エディアカラ紀」を観光地の名かなにかだと思っているのではないか。

「タイムマシンがあればな」

<sup>(b)</sup>でもソウジユウできるかな。ハンドルを左右に切るような動作をしてみせる。

「バスなら運転できるんだけどね。おれむかし、バスの運転手だったから」



男の言う「むかし」がどれぐらい前の話なのか、草児にはわからない。わからないので、黙って頷いた。むかしというからには今は運転手ではなく、なぜ運転手ではないのかという理由を、草児は訊ねない。男が「いろいろ」の詳細を訊かなかったように。

男がまた、見えないハンドルをあやつる。

一瞬ほんとうにバスに乗っているような気がした。バスが、長い長い時空のトンネルをぬけて、しぶきを上げながら海に潜っていく。いくつもの水泡が、窓ガラスに不規則な丸い模様を走らせる。

視界が濃く、青く、ソまっっていく。

海の底から生えた巨大な葉っぱのようなカルニオディスクス。楕円形にひろがるディッキンソニア。ゆったりとうごめく生きものたち。自分はそれらをいちいち指さし、男は薄く笑って応じるだろう。バスは音も立てずに進んでいく。砂についたタイヤの跡はやわらかいカーブを描き、その上を、図鑑には載っていない小さな生きものが横断する。

そこまで想像して、でも、と呟いた。

「もし行けたとしても、戻ってこられるのかな？」

タイムマシンで白亜紀に行ってしまうアニメ映画を、母と一緒に観たことがある。その映画では、途中でタイムマシンが恐竜に踏み壊されていた。その場面は強烈に覚えているのに、主人公が現代に戻ってきたのかどうかは覚えていない。

男が「さあ」と首を傾げる。さっきと同じ、他人事のような態度で。

「戻ってきたいの？」

そりゃあ、と言いかけて、自分でもよくわからなくなる。

「だって、えっと……戻ってこなかったら、心配するだろうから」

草ちゃんがどこにでも行けるように、と母は言ってくれるが、タイムマシンで原生代に行って二度と帰ってこなかったら、きつと泣くだろう。



「そうか。だいじな人がいるんだね」

おれもだよ、と言いながら、男はゆつくりと、草兎から視線を外した。

⑨「タイムマシンには乗れないんだ。仕事をさぼって博物館で現実逃避するぐらいがセキノヤマなんだ、おれには」

「さぼってるの？」

男は答えなかった。<sup>(b)</sup>意図的に無視しているとわかった。そのかわりのように「ねえ、だいじな人って、たまにやつかいだよ  
ね」と息を吐いた。

「なんで？」

「やつかいで、だいじだ」

空は藍色<sup>あい</sup>の絵の具を足したように暗く、公園の木々は、ただの影<sup>かげ</sup>になっている。きみもう帰りな、とやつぱりへんな、すくなくとも草兎にはへんだと感<sup>ま</sup>じられるアクセントで言い、男が立ち上がる。うまい棒のかけらのようなものが空中にふわりと舞い散った。

(寺地<sup>てらち</sup>はるな『タイムマシンに乗れないぼくたち』)

(注1) 古生代…約五億四千二百万年前～約二億五千二百万年前の時代。

(注2) 非常食然…見るからに非常食らしい。

(注3) 太古…おおむかし。

(注4) エディアカラ紀…約六億二千万年前～約五億四千二百万年前の時代。

(注5) カルニオデイスクス…六億年くらい前の浅い海に生息していた謎<sup>なぞ</sup>の生き物。

(注6) デイッキンソニア…六億年くらい前に海中に生息していた生物の一種。

(注7) 白亜紀<sup>あ</sup>…約一億四千五百万年前～六千六百万年前の時代。

(注8) 原生代…約二十五億年前～約五億四千二百万年前の時代。

問一 〓線あゝこのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 〓線a「唐突な」・b「意図的に」はここではどういう意味ですか。最も適当なものをそれぞれ後の中から選び、記号で答えなさい。

- |       |       |        |                 |
|-------|-------|--------|-----------------|
| a 唐突な |       | b 意図的に |                 |
| ア     | おかしな  | ア      | よく考えずに思いつきで     |
| イ     | ささやかな | イ      | 自分の意志とは関係なく     |
| ウ     | あさはかな | ウ      | いじわるな気持ちを持って    |
| エ     | だしぬけな | エ      | はつきりした考えや目的があつて |

問三 〓線①「風に吹かれた草が揺れているようだった」とありますが、どのようなようすをたとえたものですか。本文中から一文を抜き出して初めの五字を答えなさい。

問四 〓線②「また別の話なのだ」とありますが、これはどのようなことを言っているのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 両親の離婚を受け入れることで他人のような名前になり、別の人生が開けたということ。
- イ 両親の離婚を受け入れたものの、母の名字を名乗ることはまだ受け入れられないということ。
- ウ 両親の離婚を受け入れても、自分には解決しなければならぬ学校の問題がまだたくさんあるということ。
- エ 両親の離婚を受け入れて母の名字を名乗ることになり、父とは異なる生き方をすると決心したということ。

問五

——線③「そんなふうに」とありますが、どんなふうですか。次の文の

にあてはまることばを本文中から三十五字

以内でさがし、初めと終わりの四字を抜き出して答えなさい。

教室の生徒たちの

三十五字以内

というふうに

問六

——線④「草児の心はなぐさめられる」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 透明な仕切りごしに友人たちを観察することで、毎日の生活にあきあきすることがないから。

イ 世界と自分との間がへだてられていると思うことで、支配や圧力からのがれることができるから。

ウ この学校になじめないのではないと思ひこむことで、友人たちにも優しく接することができるから。

エ 自分はクラスの一員ではなく外部の人間だと思ひこむことで、疎外感や孤独感を味わうことがないから。

問七

A・B

に入ることばとして最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。同じ記号を使つては

いけません。

ア たいてい

イ いやいや

ウ めったに

エ いそいそと

オ ずいぶんと

問八

C

には体の一部を表すことばが入ります。漢字一字で答えなさい。

問九 — 線⑤「一色の絵の具で塗りつぶしたような毎日」とありますが、どのような毎日ですか。最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア どんなことに対しても興味を示す毎日。
- イ 他人には理解できない世界に生きる毎日。
- ウ 何の変化もなくて同じことをくり返す毎日。
- エ 自分が気に入った楽しいことばかりする毎日。

問十 《線》「このあいだ」は直接どのことばにかかりますか。最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- 《このあいだ》  
ア ムササビの  
イ 骨格標本を  
ウ 見上げていた  
エ 男が  
オ 草児の  
カ すぐ後ろに  
キ 立っていた。

問十一 — 線⑥「お菓子」とありますが、「男」にとって「お菓子」はどのような存在ですか。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問十二 D に入ることばとして最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 不安にさせて
- イ 気持ちを支えて
- ウ 新幹線をとめて
- エ おなかを満たして

問十三

――線⑦「恐竜<sup>きょうりゅう</sup>とかが、好きだから」とありますが、草児はなぜこのように答えるのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 多くの人たちも恐竜が好きだから
- イ 博物館の展示を代表する生き物だから
- ウ 大人たちの誰<sup>だれ</sup>しもが認める答えだから
- エ 男の子にとっては恐竜があこがれの生き物だから

問十四

――線⑧「他の大人の前では言わない続きが、するりと口から出た」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 男は草児と同じように博物館に通い、子どもが好きなお菓子を多く持っていて、何でも話せる父のように思わせるから。
- イ 知らない大人にいきなり話しかけられて緊張<sup>きんじょう</sup>したため、いつもとは違<sup>ちが</sup>った自分らしくないふるまいをしてしまったから。
- ウ 草児が泣いても男は少しも嫌<sup>いや</sup>な様子を見せないの、何を言っても決して怒<sup>おこ</sup>らない大人だということがわかったから。
- エ 男は他の大人とは異なり、草児の言葉に関してくわしく聞き出そうとはせず、そのままの草児を受け入れてくれるから。

問十五

――線⑨「タイムマシンには乗れないんだ」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 草児や男は、なぜタイムマシンに乗れないと思っているのですか。本文中のことばを用いて、「から」ということばに続くように、三十字以内で答えなさい。

- (2) 男はなぜタイムマシンに乗りたいと思っているのですか。「と知っているから」ということばに続くように十字以内で答えなさい。

問十六 この文章を読んで、草児と男についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 草児は男の考えや態度が変だと感じているが、男も自分に心を開かない草児に好感をいだくことができずにいる。
- イ 草児はタイムマシンに乗って大昔へ行くことにすこし戸惑いがあり、男はそんな草児の気持ちに共感を覚えている。
- ウ 男は仕事に行かずに博物館で過ごす時間を生きがいにしていて、草児はそんな男の行動をだんだん理解し始めている。
- エ 男は大切な人に対する思いを草児に打ち明けたが、草児はそれよりも図鑑<sup>かん</sup>にのっている恐竜の話をしたいと思っている。

## 二

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

プラスチックごみは、解決が難しい社会的な問題という点で、地球温暖化に似ている。やるべきことはわかっている。正規の処理ルートに乗らないプラスチックごみを減らすことであり、石炭や石油の消費による二酸化炭素の排出を抑えることである。だが、いずれも、わたしたちの生活をしっかりと支えているものだけに、その実行は容易ではない。市民のほかにも国や関連業界など関係者が多く、利害を含め、それぞれが別の思惑をもっている。市民のなかにも、さまざまな考え方があ

ここでは、わたしたち「市民」について、もうすこし考えておこう。手元の国語辞典には「市の住民」「国家への義務、政治的な権利をもっている国民」「近代史のブルジョア」とある。社会学事典を開くと、この2番目の点について、共同体の意思決定のない手とも書かれている。

たしかに、わたしたちは意思決定の主体だ。だが、さきほど述べたように、わたしたち個人にはいろいろな好みや考え方があり、それを単純に足し算する多数決のような意思のはかりかたでは、社会の分極を招くだけだ。プラスチックのごみの現状、マイクロプラスチックの問題点などを把握したうえで、自分の考えを柔軟に修正していく必要がある。多少は自分の好みに合わなくても、プラスチックごみ問題の解決のために一肌ぬこう。これは、いわば理性による判断だ。

一方で、理屈ではなく気分による行動も、きつと大切なものだ。最近、会議などに出席していて感じるのだが、飲み物を自分のボトルに入れて持ち歩いているマイボトル派が、すこしずつ増えているようだ。マイボトルが増えれば、ペットボトルのごみも減らせるだろう。出張先で買ったのだろうか、外国の研究所のロゴが入っていたりして、ちょっとカッコいい。

この「カッコいい」は、プラスチックごみの問題をみんなで考え、解決へ向けた流れをつくるための原動力になるのではないだろうか。

わたしがいま教えている東京大学の大学院生に、「海のプラスチックごみ問題を解決する方法を考える」という課題を与えたところ、「プラゼラベル」というマークの普及を提案したグループがあった(図)。プラスチックを使っていない製品に



このマークをつけ、プラスチック不使用を付加価値として消費者にアピールしようというのだ。プラスチックを使うべきところには使い、さして必要でないならば積極的にプラスチックを省いて、それを付加価値にする。プラゼロラベルがついている製品を持ち歩くのは、ちよつとカッコいい。そういうことだ。小さなことかもしれないが、頭でなく心で感じるプラスチックごみ対策のアイデアといえるだろう。



図 東京大学の大学院生たちが考えた「プラゼロラベル」。プラスチック不使用の製品につけて付加価値を高める。デザインしたのは陳山雨さん

市民の意識が変わり、それが力となって国が変わり産業が変われば、社会は変わる。石油をこのまま野放図に使い続けられないかもしれないという危機感で世界が混乱した1970年代の石油ショック。これを機に、日本では自動車の燃費が大幅に改善された。少ないガソリンで動く自動車を求める市民の気持ちが強くなったことが、誘因のひとつだろう。燃費のいいクルマは、懐にやさしいし、生活スタイルとしてカッコいい……。

「ティッピングポイント」という言葉がある。なにかがすこしずつ変化していたのに、あるところを境になだれを打って急変する、その転換点のことだ。一部のマニアのものであったパソコンはすこしずつ利用者が増え、1990年代半ばになって急に社会に広まった。地球温暖化の科学でも、減少を続ける北極海の氷が、もうもとに戻れないティッピングポイントを越えているのではないかという議論がある。

プラスチックごみにしても、「カッコいい」と思っ⑦て関心をもつ市民が増えていけば、ほどなくティッピングポイントに達して、さらに大きな広がりをもせるかもしれない。そのとき注意したいのは、たんなる勢いにならず、一方で冷静な関心を保っておくことだろう。日本の社会は、全体が盛りあがると問答無用の雰囲気になりがちなので、その点がやや心配だ。戦争中④に大政翼賛会が「進め一億火の玉だ」と戦意をあおり、いまでも会社⑤に不祥事があると「全社一丸」となって信賴回復に取り組むし、スポーツイベントには「日本中が興奮」して「オールジャパン」で声援を送ろうとする。プラスチックごみ追放の合唱のなかで、プラスチックを使う人が非国民あつかいされるような社会でも困る。

「カッコいい」に期待したのは、プラスチックごみの問題に対する一人ひとりのアンテナの感度を高める効果だ。ニュースで見聞きしたとき、なにか施策が動こうとしているときに、そちらに自然と注意が向くこと。そのうえで、プラスチックごみ問題の優先度や対策について頭で考え、冷静にバランスのよい判断をくだす。その判断を支える助けになつてほしいと願いながら、この本を書いた。

(保坂直紀『海洋プラスチック 永遠のごみの行方』)

(注1) マイクロプラスチック…小さなプラスチックごみのこと。

(注2) 野放図…周りのことを考えないで行動すること。

(注3) 誘因…あることがらを起こす原因。

(注4) 大政翼賛会…戦時中に作られた政治団体。

(注5) 不祥事…よくないことがらや事件のこと。

(注6) 施策…主に政治的に行う行動や手段のこと。

問一 線a「一肌ぬぐう」・b「問答無用」はどのような意味ですか。最も適当なものをそれぞれ後の中から選び、記号で答えなさい。

a 一肌ぬぐう

- ア その人のために自分の力をつくそう
- イ その人のためにしっかりと考えよう
- ウ その人のために初めから考え直そう
- エ その人のために思いこみを捨てよう

b 問答無用

- ア 活発に議論しないこと
- イ 答えが見つからないこと
- ウ 話し合いが成立しないこと
- エ 最初からあきらめてしまうこと

問二——線①「解決が難しい社会的な問題」とありますが、なぜ解決が難しいのですか。次の中からあてはまらないものを選び、

記号で答えなさい。

ア 市民ということだが、ほかの環境問題と同じように複雑で理解されにくいから。

イ 現在のような便利さや快適さが失われて、生活が成り立たなくなってしまうから。

ウ 多くの人間がかかわっていて、それぞれの利害や考えが複雑にからみ合っているから。

エ そこに住む人々には多種多様な考え方があり、一つの意見にまとめることはできないから。

問三——線②「わたしたちは意思決定の主体」とありますが、現代の社会ではどのような方法で「意思決定」していると筆者は考えて

いますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア リーダーが自信を持って決定する方法。

イ 賛成者の数が多い考えを採用する方法。

ウ みんなが同じ考えになるまで話し合う方法。

エ 反対者の考えも生かしていくようにする方法。

問四——線③「理性による判断」とありますが、ここではどうすることですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えな

さい。

ア 問題点を理解し、解決のために自分の考えを適切に直していくこと。

イ 改善する点を見つけ出し、過去のやり方を参考にしながら行うこと。

ウ 原因を考えて最善の方法にたどり着くために、感情を大切にすること。

エ 知識をフル活用し、どこから見ても欠点のない解決策を提案すること。

問五 — 線④「理屈ではなく気分による行動」とありますが、どのように考えて行動することですか。本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問六 — 線⑤「飲み物を自分のボトルに入れて持ち歩いている」とありますが、人々はどのような目的でこういう行動をとっているのですか。「目的」ということばに続くように十五字以内で答えなさい。

問七 〰〰線㍑㍒の「が」の中から他と働きが異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問八 — 線⑥「心で感じるプラスチックごみ対策」とありますが、これはどのような対策ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人の心理を利用した対策。
- イ 人の改心をうながす対策。
- ウ 人の良心を逆手に取る対策。
- エ 人の本心を見すかした対策。

問九 — 線⑦「ティッピングポイント」とありますが、そのことばの意味を具体的に説明した部分を本文中から四十六字でさがし、初めと終わりの四字を抜き出して答えなさい。

問十——線⑧「プラスチックを使う人が非国民あつかいされるような社会」とありますが、どのような「社会」ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア プラスチックを使う人は日本人の数に入れない社会。

イ プラスチックを使う人が自由をうばわれるような社会。

ウ プラスチックを使う人のすべてを否定してしまう社会。

エ プラスチックを使う人に国民としての権利をあたえない社会。

問十一——線⑨「アンテナの感度を高める」とありますが、具体的にどうすることですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア プラスチックごみの問題の判断をささえる助けになること。

イ プラスチックごみの問題に自然と注意が向くようにすること。

ウ プラスチックごみの問題の優先度や対策について頭で考えること。

エ プラスチックごみの問題に冷静でバランスの良い判断をくだすこと。